

## 今週（10月9日から10月12日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して調達ニーズが底堅かった。日銀当座預金残高は小幅な変動にとどまり、概ね387兆円台での推移となった。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.08～▲0.01%程度と幅広い出合いとなり、週半ばまでは調達意欲の強い先と弱い先で二極化していたものの、週末は今積み期間最後の3日積みとなることもあって無担保コールO/N加重平均レートが上昇した。今積み期間は、マクロ加算比率が増加した事に加え、営業日数も少なかった事から、一日あたりの調達量が増加している先も多く、レートが上昇しやすい展開であった。ターム物は、ショートタームを中心に▲0.02～0%近辺での出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは12日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,841億円（期落ち額1,891億円）と札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.140～▲0.095%のレンジでの取引となった。積み終盤となるものの投資家の資金調達ニーズが弱く、レートは低めでの推移となった。9日のTN(10-11)は▲0.110～▲0.095%の出合い。10日のTN(11-12)は▲0.120～▲0.105%の出合い。11日のTN(12-15)は▲0.135～▲0.11%の出合い。積み最終となる12日のTN(15-16)は▲0.145～▲0.130%の出合いとなった。

SCは個別銘柄では5y130～136、10y334～352、20y160～165、30y50～60、40y11などのカレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、償還日が年末越えとなる3M物を中心に、引き続きレートは低水準で推移するマーケットとなった。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.22～▲0.21%と強めの出合いが見られる中、平均落札利回▲0.2003%、按分落札利回▲0.1823%と、前回債からレートは低下したものの、按分レートが流れる結果となった。セカンダリーでは、▲0.183～▲0.178%出合いと小甘く推移した。

12日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.25%から▲0.32%に買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.2943%、按分落札利回▲0.2716%と、引き続き低いレート水準での決着となった。入札後は▲0.30%前後での推移となった。

11日に実施された短国買入オペは、レートが低水準で推移している事から、実施の有無が注目されていたが、1,000億円でオファーされた。買入額が少額にとどまる中、全取利回較差+0.016%、平均落札利回較差+0.016%と在庫調整の売りからか、弱い結果となった。

### ●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額が6,500億円程度に対して、週間発行総額は6,000億円程度とやや償還超となった。15日発行にはゴム製品・電気機器・不動産業態において大型発行があったものの、月初の発行再開が一服し、今週は発行銘柄数が多くはなかったため、やや閑散としたマーケットとなった。発行レートについては、発行頻度が少ないものや、発行額が小さいものにおいてはやや強めの買いが見られたが、その他大方の銘柄は0%近辺での決着となった。

11日にはCP等買入オペが、オファー額2,000億円で実施された。前回からのインターバルが短かったことで、その間の発行があまり膨らまず、業者の入れ替えニーズがさほど強くなかったため、結果は平均落札レート▲0.001%・按分レート▲0.004%と、前回（平均0.000%・按分▲0.004%）比で概ね横ばいの落ち着いた結果となった。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/8 (月)						
10/9 (火)	23,469.39	0.155	113.00	△ 0.052	△ 0.108	3,871,800
10/10 (水)	23,506.04	0.150	113.04	△ 0.053	△ 0.108	3,872,100
10/11 (木)	22,590.86	0.140	112.15	△ 0.050	△ 0.118	3,876,800
10/12 (金)	22,694.66	0.145	112.16	△ 0.042	△ 0.131	3,874,400

## 来週（10月15日から10月19日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/15 (月)	8月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				8月の米企業在庫 9月の米小売売上高
10/16 (火)		5Y 20,000億円 10/17発行			9月の米鉱工業生産・設備稼働率
10/17 (水)		交付税借入 10,500億円 10/25借入			9月の米住宅着工件数 9月の英消費者物価指数 9月のユーロ圏消費者物価指数改定値
10/18 (木)	日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 9月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 21,000億円 10/22発行	20Y 10,000億円 10/19発行		
10/19 (金)	全国信用組合大会にて黒田総裁講演 9月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,200億円 10/22発行			9月の米中古住宅販売

※ 10/20(土) 日本金融学会にて雨宮副総裁講演

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/15 (月)	500	80,600	81,100	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補充		9,300 ▲1,900 ▲200 800 1,300	11,100	92,200	年金定時払い TB2M発行中止 TB3M発行▲42800償還39400 2Y償還14000 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3700 個人向け償還1500
10/16 (火)	0	1,000	1,000	CP買入		2,000	2,000	3,000	
10/17 (水)	0	▲18,000	▲18,000				0	▲18,000	5Y発行▲20000
10/18 (木)	▲1,000	2,000	1,000				0	1,000	
10/19 (金)	▲1,000	▲5,000	▲6,000	被災地支援	▲100		▲100	▲6,100	20Y発行▲10000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲1,500	60,600	59,100	—	▲900	13,900	13,000	72,100	

10/15は日銀予想、10/16以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日の積み最終日は、年金定時払いにより大幅な余剰日となるものの、一定の調達量は見込まれる。16日以降は新積み期間となる事で、再び落ち着いた状況となる事が予想される。無担保コールO/N加重平均レートは多少低下することが見込まれる。

レポ市場は、新積み期となりレート動向は投資家の資金需要次第となるが、▲0.150～▲0.090%の低めのレート推移になると予想する。

短国市場は、18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施予定となっており、レート水準が注目される。短国買入オペのオフアー日程・金額にも注目したい。

CP市場は週を通して特段のイベントは無いため落ち着いた地合いが予想されるが、下旬に向けてどれだけ発行銘柄に拡がりがあるか注目される。

主要なイベントとしては、国内では19日に9月の全国CPI、海外では17日の9月の英国CPIが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入